

漂標

Miotsukushi

1998年1月17日発行

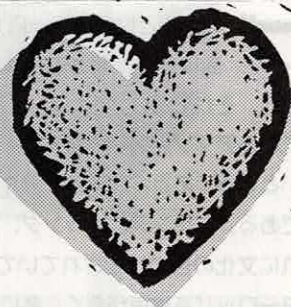
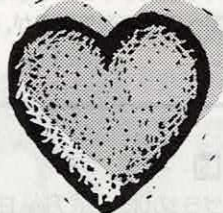
No. 66

WORLD

大阪府青年国際交流機構

会長 松本 仁孝

A HAPPY NEW YEAR!



今号の紙面

- 国際青年育成交流事業報告
- ワンワールド・フェスティバル
- アジア太平洋青年招へい事業報告
- 国際交流フォーラム報告
- 全国大会（福島大会）報告

平成9年度 国際青年育成交流事業 帰国REPORT

ブラジル、カナダ、ドミニカ共和国、ドイツ、インドネシア、ジョルダン、ネパール、ジンバブエの8カ国への青年海外派遣が、9月2日から25日の期間で行われました。

■ コラサン・ケンチの国

ブラジル団 宗方 由紀

ブラジルという国を一言で表わすのは難しい。日本の23倍の面積では、北と南では気候も全然違うし、移民国家であるから、それぞれの文化がある。たとえば、北は日本でも良く知られているアマソナス州、有名な、破壊されつつある森林地帯のある暑いところである。北東部の海岸部は、白く続く砂浜を持つ美しい街である。フランス、オランダ、アフリカからの移民によってそれぞれに文化の色づけをされていて、それぞれが美しい。また、南は、ヨーロッパ系移民が多く、冬には雪も降り、スキーだってできる場所があるのである。たった8行では、とてもとても納め切れないたくさんの顔を持つブラジルも、この言葉を使えば一言で言えるかな…それは、“人が暖かい国”である。

ブラジルを理想郷のように言うつもりはない。だが、彼らは人と人との絆、特に家族との絆を大切にすることに長けている。また、超情報化社会においても、自分たちに必要なものだけを取捨選択することに長けている。故に、地に足がついた生活を忘れず、暖かい人間関係を築くことができるのであろう。

4年ぶりに訪れた久々のブラジルは、経済的にも大きな伸びをみ

■ 人々のやさしさ

ネパール団 北端キク子

必ず行ってみたかった国ネパール。飛行機から降りたとき、とってもまぶしい日差しで迎えてくれた。滞在中、多くの人々と出会った。トレッキングで訪れた山村の人々や子供たちは快く迎えてくれ、子供たちは目をキラキラさせながら「ナマステ!!!」と声をかけてくれた。たった3週間だけど、滞在中ずっと感じていたことは、人々のやさしさだった。帰国してからも、あの時のこともきっと好意でしてくれたんだと冷静に振り返ることも山ほどある。日常生活の中で忘れてしまっていたゆったりとした時間の流れの中での暮らしぶりを体験し、何か大切なものを思い出させてくれるようなそんな気持ちにさせる何かがあった。そして、私が実感したのは、その国の人に会い、ふれあい、その人達のことが好きになるからこそ、もっとその国が好きになるということ。これからも、好きな国、好きな人達と出会い、広がっていくための第一歩が、今回のネパール派遣であったと思う。



せ、治安も良くなったかのような片鱗も見せていた。実際のところ、根本的解決はされていないと思うし、残されている社会問題も多い。だが、それでもいつだって、私の頭と心をリフレッシュしてくれる大きな懐をもっている国である。

■ たくさんの出会い

インドネシア団 木下 晶恵



広大なインドネシアには、出身地の違い、貧富、様々な仕事など、たくさんの違いがあります。この多様な違いを認め合う人々は、

おらから笑顔が明るく、思いやりがあるように思いました。また、様々な歴史から、自国や自らに誇りを持って生きているようでした。

また、この派遣で、たくさんの人と出会うことができました。携

帯電話を片手に忙しい中案内してくれたマスリ氏や、7月に来日したインドネシア団のメンバー。ホームステイを受け入れてくれた村の人々。本当の家族のようで離れ難かった老夫婦。笑顔で迎えてくれたたくさんの人々。私と違った国で生まれ、過ごしてきたこの人々から、今まであまり考えてなかったり、見過ごしてきた事柄に気付かされ、改めて日本や自分について考えさせられました。そして異なった環境の中、支え合えた10人のメンバー。この事業に応募したときから、たくさんの「出会い」は始まりました。

この事業に参加して、インドネシアという国が、私の中で重要になったというだけでなく、出会った一人一人が忘れ難く、大切な存在になっています。この同じ時間を過ごしているのは、私や身近な人達だけでなく、この地球の上にたたくさんいることを感じ、一人一人が幸せであることを願わずにはいられません。とても大切な宝物をもらったような気がします。

「メキシカンタコス」大盛況!

One World Festival

三宅 仁美

去る10月19日(日)に鶴見緑地公園にてワンワールドフェスティバルが開催されました。大阪IYEOは、質問などを受け付けるブースを設け、模擬店として「メキシカンタコス」を出店しました。ワンワールド当日はすっきりと晴れた青空の下、在関西のNGO、国連関連機関を始めJICA、青年海外協力隊のブースなども設置され、沢山の人が賑わいました。勿論、世界各国の民族料理の模擬店も大盛況で、タコスは昨年度よりも多い400食を用意したにもかかわらず、午後2時ごろには完売となりました。

ワンワールド会場では、民族衣装の体験コーナーあり、諸外国語の体験ブースあり、「開発」に関するパネルディスカッションありと、非常に盛りだくさんの内容でした。前日はタコスの準備やポスター作り、当日は屋台の準備に後片づけとバタバタしましたが、当日は屋台の準備時間を過ごすことができました。

ワンワールドは毎年開催されていますので、まだ参加したことのない方は、是非一度参加してみたいかがですか?



感じてくれた? 「Energetic OSAKA」 —アジア太平洋青年招へい事業—

岡本 光市

平成7年度より始まった「アジア太平洋青年招へい事業」はアジア太平洋地域の青年たち約120名を約15日間日本へ招へいし、東京での「アジア太平洋青年フォーラム」をはじめ地方プログラムのホームステイや地元青年たちとの交流が行われる。大阪へは昨年10月24日~10月29日の6日間オーストラリア・キリバス・ベトナムから各国6名、計18名が来阪した。インターコミュニケーション大阪で実行委員会を組織し、24日~26日はホームステイを27日~28日は「体験」というキーワードをもとに大阪湾めぐり・海遊館・大観覧車・なみはや国体空手見学・キッズプラザ・ベトナム料理・日本文化紹介などさまざまなプログラムを実施した。企图中でも大阪らしさを取り入れ、また日本的なことも取り入れ、外国青年たちは大阪のあらゆる部分を満喫し、大阪の青年を通して「Energetic Osaka」の一面を感じたのではないかと思う。大阪の青年共々忘れられない良い思い出になっていることだろう。



へい! らっしやい!

「国際交流フォーラムに参加して」

國分 由佳

総務庁海外派遣を含め大阪府が関係している国際交流事業を広く一般の人に、紹介し理解してもらうために、12月14日(日)大阪府立青少年会館にて「国際交流フォーラム」が開催された。

このフォーラムは3部構成で、第1部は外国人2名による英語落語、第2部は海外派遣事業参加者による帰国報告会、第3部は情報交換会と続いた。

第2部では、大阪 I Y E O を代表して近年総務庁事業に参加した4名が事業内容とそのエピソードを発表した。他の環太平洋地域青年交流事業、青年海外協力隊、近畿青年洋上大学のメンバーが真面目な固い発表をしたのに対し、I Y E O メンバーは周囲の笑いを誘いながら、楽しく印象的な話を披露してくれた。

今年韓国に行った宮下健一さんは、韓国の食文化はビビンバに代表されるように混ぜる文化だと紹介。ネパールに派遣された北端キク子さんは、現実には難しいのに「先生になりたい」とか「弁護士になりたい」と将来の夢に目を輝かせていた女子高生の姿が忘れられないと話した。また、一昨年第8回世界青年の船に参加した玉田かおりさんは、いろいろな宗教、生活文化が交錯した2ヶ月の船旅は世界の縮図であり、驚きと興奮の連続だったと話した。インドネシアの民族衣装を着て登場した平成8年度東ア船に参加の田中康一さ

んは、100円で買える物としてベトナムの空缶で作った帽子を紹介。そして言葉が通じなくても、近づきたい、友達になりたいという気持ちがあれば、外国人と親しくなれるとジーンと熱くなる話をしてくれた。

第3部の交換会では、軽食をつまみながら個別に一般の人から質問を受けた。I Y E O メンバーはモテモテで、事業内容の説明を何人にしたことが……

来年度の新しいメンバーが楽しみである。

全国大会について

藤本 和子

福島県 J-Village (なんとサッカーのナショナルトレーニングセンター) で開かれた第13回全国大会に行ってきました。初日は「小講演&トーク&トーク」といって、国際交流について5つのテーマが用意しており、それぞれ自分の関心のあるテーマの会場へ行って講師のはなしを聞き、意見交換をするというものでした。

2日目、「フットサル(ミニサッカー)大会」がありました。私は最初のうちはやる気がなくて、だらだらしていましたが、始まると必死になって走り回ったため、翌日は筋肉痛に悩まされました。全国大会はジョルダン派遣団の同窓会もかねているので、来年の開催地、徳島県で再会することを約束して帰ってきました。

INFORMATION BOARD

募集

「近畿ブロック海外派遣青年のつどい」の委員募集!

今年の「近畿ブロック海外派遣青年のつどい」が7月4・5日に和歌山県で開催の予定ですが、「海遊会」は機構の会員になってまだ日も浅いので、他府県からプログラム、PR方法などのアドバイスをお願いしたいということで、「実行委員」という形で協力してほしいとの依頼が来ています。交通費に関しては現在考慮中ということなので、他府県との交流もかねてやってみようという人、岡本(TEL/FAX 06-975-0801)までご連絡ください。

「東南アジア青年の船」25周年記念事業

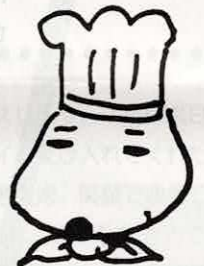
SSEAYP International エッセイコンテストについて

平成10年度は、「東南アジア青年の船」の25周年にあたり、それを記念してSSEAYP International (日本及びアセアン各国の同窓会組織)は、「21世紀のアジアのリーダーシップ」と題して青年

- を対象としたエッセイ・コンテストを開催し、各国優秀者を選考して表彰(最優秀者はインドネシアのバリでのSSEAYP総会に招待)します。30歳までの方ならどなたでも応募できますので、どしどしご応募下さい。応募詳細は松本(TEL06-761-3257 FAX 06-761-3316)まで。

COOKING COMMUNICATION 講師募集中

- 来る3月1日、恒例になりましたICO主催によるクッキングコミュニケーションが市立婦人会館にて開催されます。毎回、ワイワイガヤガヤ楽しい一時を過ごせて、おいしいものが食べられると大好評です!今回の料理を担当してくださる講師を募集中ですので、お知り合いの外国人の方をどうぞ紹介ください。お問い合わせは、無量林(06-973-1046)まで。



青春後記

寅年の今年、いぬ年の私は何に挑戦しようかと、思案しているところ。去年は9月に育成交流事業のドイツ団副団長というお役目をいただいた以外はほとんど仕事オンリー。とっても楽しみにしていたドイツに行き考えたのは、世界はどこへ向かって進んで行くんだろうというこ

と。環境・教育・政治など、全てにおいて先を行くドイツもやはり「心」の問題をかかえていた。薬物依存、コンピューター依存など、みんなどこかに「さびしさ」を持っていて、解決の糸口が見えていないような気がした。先日、「セブン・イヤーズ・イン・チベット」を観たが、その中で、オリンピックで金メダルをとった事得意げに語るオーストリア登山家の主人公に、チベット人女性が「チベットでは、目

立つことが重要ではない、皆が平和に幸せに暮らせることが大切…」と彼には目もくれず、他の男性を選ぶ。長野オリンピックで金メダルを獲得することよりも、神戸の仮設住宅で孤独死していくお年寄りに皆が関心を示すような世の中であれば、「さびしさ」を感じなくてもすむのかもしれない。さて、今年は何を考え、何をすればよいのだろうか T. OH! NO!